

常盤中学校コミュニティスクールだより

No. 1

令和6年度の第1回学校運営協議会が、6月14日（金）10時から常盤小学校の会議室で行われました。今年度も常盤小・常盤北小と3校で常盤中学校区コミュニティスクールを推進してまいります。



〈令和6年度 学校運営協議会委員〉

会長	栗原 勝義	（常盤公民館館長）
副会長	佐藤 好子	（常盤中学校後援会長）
	志水 正	（北浦和5丁目自治会長、青少年育成常盤地区会長）
	柴崎 八重	（さいたま浦和地区更生保護女性会顧問）
	佐藤 マミ	（浦和地区中央地区民生委員・児童委員）
	財部 幸樹	（常盤北小学校校長）
	新船 孝子	（国際交流協会事務局長）
	大庭 裕信	（AGS株式会社キャリアアドバイザー）
	菊地 耕太郎	（埼玉りそな産業経済振興財団専務理事）
	作間 由美子	（株）メディアサーカス代表取締役）
	斎藤 光人	（株）ゴールドアンドグリーン代表取締役）
	山本 夕紀	（常盤中学校PTA会長）
	輿石 純美	（常盤中学校PTA副会長）
	玉崎 芳行	（常盤中学校校長）
	藤田 雅彦	（常盤中学校地域連携コーディネーター）



〈学校運営協議会の様子〉

はじめに、学校運営に関する基本的な方針の説明等と承認を行いました。

校長より、資料及び令和6年度「学校グランドデザイン（案）」及び「学校評価システムシート（案）」をもとに教育課程の編成、学校経営計画、組織の編成、予算の執行、施設及び設備の管理に関する説明を行い、質疑応答後に全委員より承認を受けました。

熟議の時間では、各校教頭より、昨年度の運営協議会の内容について報告を行い、6グループに分かれて、『『あいさつ』に関する学校、家庭、地域ができる具体的な取組について』『コミュニケーション力』向上のために、学校、家庭、地域ができる具体的な取組について』を話し合い、グループごとに発表しました。

〈各グループの意見〉

熟議の最初に、「コミュニケーション力が向上することで『目指す子ども像』」を共有しました

グループ1

相手のことを思いやり、リスペクトできる（相手のことを考えた行動がとれる子ども）、自他のよさを認め合える子ども、グローバルな視点をもった子ども、自己肯定感の高い子ども

グループ2

困っている人に声を掛けられる子ども、他の人を助けられる・「助けて!」といえる子ども、思いやりがもてる子ども、聴く力を大切にして主体性を発揮できる子ども

グループ3

自分の考えを表現できる子ども、地域やクラスのコミュニティづくりができる子ども、世代間の違いを考えられる子ども

グループ4

場の提供（スポーツを通して触れ合う場・記号体験を通して触れ合う場）を通して、相手のことを考えられる子ども

グループ5

他者と関わって課題解決をすることで、自分の思いを表すことができる子ども、協働できる子ども、地域のよさをはぐくむ子ども

グループ6

相手の名前を呼んで、笑顔で接することができる子ども、自分の感情をコントロールして相手と向き合い、社会性をはぐくむことができる子ども

次に、それぞれの考える「目指す子ども像」を踏まえて、地域・学校・家庭で「あいさつ」や「あいさつ以外」で取り組めることについて、考えを共有しました。

グループ1

地域→学校・家庭以外の第3の場として、多世代との交流の場を設定する。目を合わせてあいさつする。子ども会や自治会への参加を呼びかけ、社会性をはぐくむ。

学校→あいさつ運動の実施。交通指導プラスあいさつ。授業等における対話的な学びによるコミュニケーションの向上。

家庭→生活の中で意識的な声掛けを行う。（朝・寝るとき・食事等）
公共のマナーや生活のマナーを身につけられるようにする。

グループ2

地域・学校・家庭→地域の人・先生・家族が意識的にあいさつする。子どもの力をいかしたあいさつの促進、地域の集まりや習い事など様々な場面で「知り合う」機会をつくることで、コミュニケーションが生まれる。

グループ3

地域→ボランティアや体験活動をきっかけとしたあいさつの促進

学校→「おはよう」「さようなら」以外のプラスアルファの言葉がけ

家庭→「ありがとう」や目を見たあいさつ

※地域・学校・家庭で共通の話題があれば、話も広がる。

グループ4

地域・学校・家庭→あいさつの投げかけの継続、それぞれの立場であいさつを継続することで、子どもの知識や経験を増やす、違った立場の人たちが集まり、意見を交流することで価値が生まれる。

グループ5

学校→1人ではあいさつが難しい子どもが、みんなとできる場を設定。休み時間の交流。

家庭→子どもの気持ちを引き出すことのできる「よい」環境を提供する。

グループ6

地域→イベント等を通じたコミュニケーションをつちかう場を設ける。

家庭→親が情報をもって、子どもの引き出しをあげ、増やしてあげられる声掛けを行う、子どもが見ていることを意識して家族（夫婦）間でのあいさつの励行。

学校→職員間のさわやかなあいさつ。

〈本日のまとめ〉

常盤小教頭が、各グループの意見をホワイトボードにまとめました。地域、学校、家庭で、コミュニケーション力が向上することで目指す子ども像を踏まえ、あいさつを通してできることやコミュニケーション力を向上するためにできることについて、それぞれの立場で確認して、今後実践してまいります。

